

- 市内農家で生産に取り組んでいる、全国でも生産量の少ない洋野菜について、地産地消の取組として道の駅のレストラン・加工施設での活用や、学校給食での活用、大学連携などを通じて、特産品化を支援し、地域経済の活性化を推進。
- 体験農園(約1,500㎡)に、洋野菜のモデル圃場を設置し、高齢農業従事者や新規女性・若年就農者への研修や、消費者への認知度向上を図るとともに、来訪者と生産者の交流の場を創出。
- 無料の市民バスのバス停を設置し、周辺施設とネットワークでつなぎ高齢者の生活福祉サービス向上を促進。

産業振興 常陸大宮ブランド創出	交流・連携 地域資源を活用した体験・交流	観光総合窓口 地域のコンシェルジュ	防災 災害時の支援拠点	交通結節点 高齢者の生活福祉サービス向上
--------------------	-------------------------	----------------------	----------------	-------------------------



体験農園での研修会を通じた来訪者と生産者の交流促進

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
常陸大宮	茨城県	常陸大宮市	国道118号	新設	平成27年	一体型

洋野菜を活用した女性目線のレストランメニューの開発



市民バス(無料で運行)

＜提案の先駆性・ポイント＞

- 本市では中山間地域のデメリットを補うため平成23年度より全国でも取扱いが少なく収益性の高い洋野菜生産に取り組み始めている。
この洋野菜を道の駅で取り扱い地産地消を推進しブランド化を図る。
さらに、道の駅内に洋野菜のモデル圃場を設置し新規就農者へ研修会を行い農業従事者の所得向上につなげる。
- 洋野菜は、比較的軽量、収益性も高いことから、高齢農業従事者の意欲向上につながるとともに、女性嗜好にも合う料理の提供や体験農園での栽培により、女性・若者の交流の促進や若年新規就農者の確保を図る。
- 大学との連携により、特産品を活かしたレストランメニューなどの開発を行うとともに、消費者の評価分析を実施し、更なるメニュー開発に活かす。

＜実施内容＞

- 直売施設への洋野菜等専門コーナーの設置や、デジタルサイネージによるレシピ紹介。
- 大学との連携による洋野菜を活かしたレストランメニューや惣菜メニューの開発と、JAや種苗メーカーなど専門家との連携による洋野菜栽培の技術支援。
- 農業・商業連携による新たな商品開発。
- コンシェルジュデスクやWi-Fi設置による情報発信機能の向上。
- 災害用井戸、非常用発電機、ドクターヘリポート等整備による防災機能の強化。
- 無料の市民バスのバス停を設置。